

6月2・3・4日と四市の神社総代会200名を案内して伊勢神宮、内宮外宮を参拝。

ハードスケジュールを終えた翌朝、静岡日本平で開かれた関東商工会議所連合会総会へと参加致しました。

関商連会長を兼任する三村会頭からは「現状のまま何もしなければプラス成長は困難となり、マイナス成長が定着してしまうであろう、人口オーナスと縮小スパイラルの双方が作用して国民生活は低下、地方の4分の1の527市町村は消滅危機の可能性が高くなり、医療、介護費の増加により財政が破たんするリスクは大となる。そのためにも制度、政策や人々が危機意識を持って人口急減、超高齢社会の流れを速やかに変えて、若い世代や次の世代が豊かさを得て結婚し、子供を産み、育てることに集中できる社会を作らなければならない。先ず未来への選択として①『人口』国民の希望通り子供を産み、育てられる環境を作り1億人程度の人口の保持策として資源配分を高齢者から子供達にシフトして出産子育て支援を倍増させ、費用は現世代が負担をしていく政策を進めなければならない。②『成長・発展』経済を世界に開き、創意工夫して新たな価値を創造することによって経済は成長し続けるものです。経済成長の原動力は中小企業の成長に向けた挑戦にあります。

③『人の活躍』年齢、性別にかかわらず、働き方の改革によって能力や意欲によって70歳まで働ける社会、生産年齢人口を見直す時であります。④『地域・地方の未来』日本は外国人にも大変魅力ある観光資源の豊富な国であります。

新しい認識・発想で資源を利活用して農業、観光に多くの人の働く場所を作るべきであり、地方都市はコンパクトに集約、活性化する地方都市圏を形成して、東京への若者の流出を防ぐべきです。

⑤『信頼・規範』日本の国土に育まれた伝統、文化、美意識、価値観を継承すると共に誇りと自信を持って世界へと発信を続ける事であります。それによって社会保障制度や財政の持続可能性を確保すべきであります。2020年のオリンピック、パラリンピックは日本の再出発を果たす絶好の機会であります。

私の夢は日本人が自信を取り戻し、活力に満ち溢れる社会を創出し、日本が世界の発展を牽引して行く事であります。

また地域商業、中心市街地の再生、農商工連携を推進して商工会議所はそのリーダーとしての大きな役目と任を全うして強調し、如何な困難にも果敢に取り組み、国民、企業に信頼される会議所を目指す覚悟であります。」と挨拶されました。

次の日は雨の中でのゴルフとなりましたが、三村会頭は前橋の生まれであり、前橋では旧藩主秋元家の善政を感謝して今でも『秋元祭り』が行われており、その最初の祭りの折、私に偶然お殿様の代理をさせられた因縁もあり、また君津製鐵所の大地主（漁業組合長）の息子さんだからとの理由で？パートナーに選んで下さいました。日頃から三村会頭の先見性には極めて畏敬の念を持って居りましたので話題にも事欠かず、終生記念すべき幸運な一日でありました。（ちなみに三村会頭と前田専務は同率3位でした。）

